

第1回 豊田市総合計画推進会議 要旨 令和7年7月8日（火）開催

参加者

<有識者>

- ・ ニッセイ基礎研究所人口動態シニアリサーチャー 天野 馨南子 氏
- ・ 特定非営利活動法人 manma 代表理事 越智 未空 氏
- ・ 同志社大学教授 永田 祐 氏
- ・ 大正大学教授 牧野 篤 氏

<ミライ実現戦略プロジェクト>

- ・ 辻 邦恵 本部長 （豊田市副市長）
- ・ 野依 真人 副本部長（豊田市企画政策部専門監）
- ・ 竹内 寧 こどもミライプロジェクトリーダー
- ・ 小澤 都司子 つながりミライプロジェクトリーダー
- ・ 三浦 浩 産業ミライプロジェクトリーダー
- ・ 阿久津 正典 都市環境ミライプロジェクトリーダー
- ・ 伊藤 勝介 脱炭素ミライプロジェクトリーダー

発言要旨

テーマ：若者に選ばれるまち（教育、少子化、つながり）

【少子化・人口動態】

- ・ 豊田市の出生率が高いが出生数は急減。
- ・ 全国的にも合計特殊出生率と出生数に相関関係はない。
- ・ 女性は10代後半と新卒就職期に大きく転出し、逆に男性が多く転入、20代後半では男女ともに大きく転出。男女がパートナーを見つけると豊田市から出ていく構造。
- ・ 女性の流出を防ぐことが婚姻数の増加にも繋がる。

【ライフデザイン】

- ・ ライフデザイン支援は中高・大学・社会人などステージごとの設計が必要。
- ・ 若者は自分の理想とするライフデザインに近い場所へ移動する傾向があり、それに対応できる地域では社会減と出生減が緩和される。
- ・ 20代の理想のライフデザインに寄り添う雇用に変える視点が必要。

【都市・産業・雇用環境】

- ・ 「製造業＝男性職場」という認識が根強い印象がある。
- ・ 雇用される側の意識は変化しているが、経営側も認識を変えていくことが重要。
- ・ Z世代は、ジェンダーレスの価値観を持ち、職業選択において「働きやすさ」「育ててもらえる環境」「社会への貢献度」で職場を選ぶ傾向。
- ・ リモートワークなどのDXの対応も重要。
- ・ 少子化対策には、就労環境を若者に寄せるという構造改革の視点が重要。

【つながり・共生社会】

- ・ 福祉部門と地方創生を横断的に連携させることが重要。
- ・ こどもや若者の社会参加支援に文化施設（博物館・図書館など）との連携も有効。

【教育】

- ・ 小中学校では「新しい価値を創造する学び方」を習得することが重要。
- ・ 教育は競争よりも協働・探究による価値創造へシフトしていく。

【地域社会・居場所づくり】

- ・ 多世代交流の場はこどもが主体となる設計が重要。
- ・ こども自身が主体となり、承認される経験が学びと自己肯定感につながる。
- ・ 「認められる関係性」が自尊感情やふるさと意識につながる。